

『さらに素敵な価値観を育むために…『Hygge』という思想も』

長谷川尚見 社会福祉士・精神保健福祉士 地域包括支援センター

ご講義を拝聴させていただきましたお時間は、デンマークの爽やかな清々しい風を、自分が過ごす空間にも感じるような心地よいひとときでした。心より感謝申し上げます。

デンマークを訪問したことがないので、実際に肌で感じるデンマークの文化と、自分が考えるデンマークの文化では、どの程度の差があるかわかりませんが、ご講義の中でご紹介いただきました「デンマーク人の幸せ」の中にございます『幸せとは「他人」からもらうものではなく、「自分自身」で作るもの』『Hyggeを大切にする』という二つのことに親しみを感しました。

自分が関わる活動を通し出逢う方々と関わる中で、『幸せを「他人」からもらう』という部分について考えてみますと、やはり様々な捉え方があることを感じます。

年齢、環境、身体状態、家族関係、職業、収入状況等、日本においても、多種多様なお立場での生活がございます。その中で、『幸せ』という意味に含まれるような、何かの軸がぶれていることを少なからず自分も感じます時には、その内容については多岐にわたるとはいえ、『幸せを「他人」から奪う』ということを経験から感じてしまうような現実につながる場合がございます。

またさらに、もらうべきものをもらわずに過ごす、もしくは、もらうべきものをもらわずに過ごすしかない状況で過ごされる場合があるということにも、気付かされることがございます。こうしたことを振り返りながら、日本にございます法律や制度で守りきれない部分がまだ多く存在していますことや、今の日本にございます法律や制度におとなざるための身近な力が不足していますことを、改めて考える機会をいただきました。有難うございました。

また、ご講義を通し、自分が関わらせていただけてきました様々な活動を振り返りながら、デンマークに住む方々が大切にされています『Hygge』を、日本の文化に合わせて日本に住む人の価値観として置き換えるように、改めて考えてみる機会を持つことができました。この機会に『Hygge』は、日本においても、その人らしく過ごすために必要とされる素敵な価値観の一つにつながる言葉であることを、自分の中でより感じる貴重な機会をいただいております。深く感謝申し上げます。

母国語で話し合うことが大切であるという遠藤先生のお言葉から、改めて、日本に住む自分が、正しいとされる日本語の意味を可能な範囲で引き続き学び深める必要性を、改めて感じさせていただきました。自分が関わる活動の場では、その場に合わせたより適切な言葉を使い、活動を通していただく一つ一つの出逢いを、さらに大切に考えていきたいと思います。

機会がございましたら、引き続きご指導くださいますようお願い申し上げます。